

第8回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。

あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていっています。

そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。

毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んでくること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

今回読んできていただくのは、「色覚多様性」をテーマにした文章です。

テキストは、下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

話題提供者 沼田 英治（人と社会の未来研究院 特定教授）

テーマ 「色覚多様性の話」

主催：京都大学 学術研究展開センター（KURA）

場所：附属図書館3階共同研究室5

対象：京都大学学部学生（正規生）先着10名

使用言語：日本語

費用：無料

申込方法：右記QRコードよりお申し込みください →

<https://forms.gle/BjMDAryb9Lvy7xm59>

【お問い合わせ】

京都大学 学術研究展開センター（KURA）



「百万遍談議」担当

jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp

★これまでの開催記録はこちら →

<https://ifohs.kyoto-u.ac.jp/project/p08/>



京都大学



2023.7.29 [SAT.]

10:30—12:00

2023年7月29日
百万遍談議 開催報告

第8回 色覚多様性の話

話題提供者

沼田 英治 人と社会の未来研究院 特定教授

参加者：3名

[内訳]

2回生 1名（農学）

3回生 1名（法学）

4回生 1名（文学）

談議メモ

かつて「色盲」や「色覚異常」と呼ばれた人たちが常に一定数以上存在する事実を受けて、近年、それを「異常」ではなく「多様性」として捉え始めた社会状況の変化を問うた使用テキストをもとに、そもそも多様性とは一体何を意味するのかをめぐって議論が開始されました。

「犯罪者の存在をも多様性の一つとして認めてよいのか」「多様性として認められる範囲は結局、政治家が恣意的に決定しているのではないか」といった発言を皮切りに、話題は次第に権力と規範の関係に集中するように。資本主義社会においては多様性への配慮には限界があり、財政の問題もあることから、なるべく多くの人が最低限の支援を受けられ不自由なく暮らせるよう、尊重されるべき多様性の範囲は政府が決めたほうが効率的である、との意見が見受けられました。

いっぽう、美術史の観点を持つ参加者からは、自分とは異なる色覚を有する人に対して、「ふだん見ることのできない世界を見られることへの憧れもある」としたうえで、解釈の幅を広げる一手段としての「違い」に気づく機会の重要性が提起されました。

後半には、多様性の尊重が過度になりすぎると、ある種の生きづらさが生じてしまうのでは、との指摘もなされました。とくにコロナ禍以降はSNS空間のみでコミュニケーションが完結してしまい、当事者の声が聞けないことから、他者への想像力を発揮するのに一段と労力を要している、とのコメントも。色覚という身近な話題から、多様性とはどうあるべきかをめぐり、社会のあり方について広範な議論が交わされた回となりました。